

生命の科学で未来をつなぐ

2012年度 原子分子データ応用フォーラムセミナー タングステンプラズマの原子過程(2)

可視光計測による タングステンスパッタリング過程の研究

目次 1,はじめに 2,実験原理 3,実験装置 4,結果と議論 5,まとめ

Dec 12, 2012







1. はじめに ダイバータ板(W)からどれだけの量のタングステンが どのような運動量をもって放出されるのかを探る



2



3,実験装置



大強度イオン源:フリーマン型の熱陰極アーク放電型イオン源 (イオン注入装置を改造したもの:ULVAC IM-200MH-FB) 入射イオン:He, Ne, Ar, Kr, 他 H, D, C等の1価および2価イオン 入射エネルギー:数keV~100keV程度 強度:数から100µA 2012/12/12







Typical 2D raw image taken by the CCD detector under Kr+ (35 keV) irradiation of a polycrystalline tungsten surface.

4,結果と議論 4.1 Kr+-W(poly)



Strong lines of the visible emission spectrum observed for tungsten surfaces under irradiation by Kr+ (35 keV) ions

Labels	wavelength(nm)	Transitions
А	400.88	$5d^{5}({}^{6}S)6\rho, {}^{7}P_{4} \rightarrow 5d^{5}({}^{6}S)6s, {}^{7}S_{3}$
В	386.80	$5d^{4}6s(^{6}D)6p,^{7}D_{4}\rightarrow 5d^{5}(^{6}S)6s,^{7}S_{3}$
С	417.12	$5d^{4}6s(^{6}D)6\rho,^{7}D_{4}\rightarrow 5d^{4}6s^{2},^{5}D_{3}$
D	429.46	$5 a^{5} ({}^{6}S) 6 \rho, {}^{7}P_{2} \rightarrow 5 a^{5} ({}^{6}S) 6 s, {}^{7}S_{3}$
E	430.21	$5 d^4 6 s(^6 D) 6 \rho, ^7 D_3 \rightarrow 5 d^5 (^6 S) 6 s, ^7 S_3$
F	404.56	$5 d^{4} 6 s(^{6} D) 6 \rho, {}^{5} F_{2} \rightarrow 5 d^{5} (^{6} S) 6 s, {}^{7} S_{3}$
G	424.44	$5d^{4}6s(^{6}D)6\rho,^{7}D_{5}\rightarrow 5d^{4}6s^{2},^{5}D_{4}$
Н	426.94	$5 a^{5}({}^{6}S)6 \rho, {}^{7}P_{4} \rightarrow 5 a^{5}({}^{6}S)6 s, {}^{7}S_{3}$
Ι	407.44	$5 a^{5}({}^{6}S)6 \rho, {}^{7}P_{3} \rightarrow 5 a^{5}({}^{6}S)6 s, {}^{7}S_{3}$
J	410.27	$5 d^{4}6 s (^{6}D)6 \rho, ^{5}P_{3} \rightarrow 5 d^{4}6 s^{2}, ^{5}D_{4}$
K	413.75	$5d^{5}({}^{6}S)6\rho,{}^{7}P_{3} \rightarrow 5d^{4}6s^{2},{}^{5}D_{2}$

Ground state $1s^22s^22p^63s^23p^63d^{10}4s^24p^64d^{10}4f^{14}5s^25p^65d^46s^{25}D_0$

Typical survey optical emission spectrum obtained by the CCD detector under Kr+ (35keV) irradiation of a polycrystalline tungsten surface. Labels A–K denote strong lines observed in the spectrum; properties of these lines are given in the Table.



Semi –log plot of photon intensity for "A" peak (400.9 nm) as a function of the distance.

2012/12/12

$$I = \sum_{k} I_{0k} \exp\left(-\frac{z}{\langle v_{\perp} \rangle \tau_{k}}\right)$$

$$\langle \boldsymbol{v}_{\perp} \rangle = 5.7 \pm 1.0 \text{ km/s}$$



I :Photon emission intensity **z** :Distance from the surface :Photon intensity above the surface :Mean vertical velocity component normal to the surface :Life time. (59.4 ns)[3] τ_{k}

[3] E. A. Den Hartog *et.al .,J. Opt. Soc. Am.* **B4**,48(1987)





$$\langle v_z \rangle$$
 of W*(6p ⁷P₄) atoms as a function of
the projectile energy

プロジェクタイルイオンの入射エネルギーが異なっても、この遷移 に対応するW*の垂直方向の速さは変わらない。 単純にエネルギーに換算すると~30eVになる。[4]

[4] K. Motohashi et. al., Phys. Scr. T73 (1997) 329







peaks as a function of the distance.













[3]E. A. Den Hartog et.al., J. Opt. Soc. Am. B 4, 48 (1987).

4.2 Kr+-W(poly) ドップラーブローディング解析



ドップラーによるピー クの拡がりはほとん どなく(Fittingの誤差 で解析不能になる程 度)、標的タングステ ン板に平行な方向 の速度解析は難し い。

4.3 Ar+ - W(poly)



プロジェクタイルのイオン種の違い(Ar+とKr+)では、スペクトルの 各ピークの強度比はほとんど同じ。(イオンの絶対量は異なる)





この図は、各上準位の励起エネルギーとイオン化エネルギーの差 と仕事関数の関係を横軸に整理したもの プロジェクタイルのイオン種の違い(Ar⁺とKr⁺)では、各ピークが示 す速度は変わらない。



 E_F : Work Function (4.55 eV) I_P : Ionization Energy E_{ex} : Excitation Energy



観測された発光は、非放射遷移を 逃れた励起原子の発光と考えられ るので、求められた平均速度は、比 較的速く見積もられてしまうと考えら れる。

4.4 Ar+-W(poly) 反跳イオン(Ar+)の解析





5,まとめ

クリプトン及びアルゴンイオンビームを入射エネルギー35,45,55,60 keVで 多結晶タングステン表面上に照射し、スパッタリングされたタングステンの発 光からスパッタリングされた励起原子の表面から垂直方向の平均速度を求 めた。その結果以下の事が分かった。

- 1, 求められた平均速度は励起準位によって異なり、<v_>=1.1~5.2 km/s程 度と見積もられた。
- 2,求められた平均速度、およびスペクトルは、入射イオン種に依存しない。
 3,求められた平均速度は、この入射エネルギーの範囲では入射エネルギー にほとんど依存しないという結果が得られた。
- さらに、反跳したアルゴンイオンのピーク解析によりタングステン表面から垂直方向の平均速度を求めた。(133.7km/s、3.7keV程度)

今後の予定

1,軽イオン(H+)照射実験(実施済み)の解析を行い、核融合炉内を模した状況 における基礎データの取得を目指す。

2,反跳イオンあるいは反跳原子(電荷移行後)についてドップラー効果を利用した解析を行い、表面に平行方向の平均速度を求める。

謝辞

以下の支援を受けました。感謝いたします。 NIFS Collaboration Research program (NIFS09KBAF002 & NIFS12KBAF008) The Grant-in-aid for Scientific Research (A) (23246165)

